

ミニレクチャー in サマーキャンプ

右の絵は『吃音の気球』です。この気球は M、Fl といった燃料と、P、F、A、G、H、Wf、Sf、Cs といった重りにより飛行を行なっています。

では M、Fl、P、F、A、G、H、Wf、Sf、Cs とはそれぞれ一体なんなのでしょうか？ それぞれの具体例を一つずつあげてみます。

M…自分は、サッカーが得意だ。

Fl…自分はこのくらいスムーズに話せる。

P…どもったら、からかわれた。

F…学級委員になりたかったけど、どもってたからあきらめた。

A…音読の順番が近くなると、ドキドキする。どもったらどうしよう！？

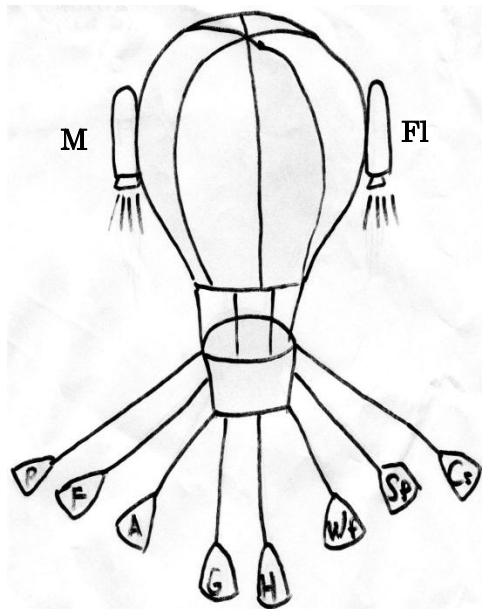
G…どもってすみません、と思う。

H…どうして自分だけどもるんだ！どもるつらさをわかってよ！と思う。

Wf…か行・た行のつくことばを、言うのが苦手。

Sf…授業参観で発言するのは、苦手。

Cs…注意して聞いてくれると、うまく話さなきゃとプレッシャーを感じる。



つまり、この気球はプラスのエンジンとマイナスのエンジンで動いていることが分かります。これらについてまとめると以下ようになります。

種類	吃音の頻度や重症度
M(morale)	士気(自我の強さ、自信)
Fl(fluency)	流暢さ(本人の感じる流暢さの程度)
P(penalty)	罰
F(frustration)	欲求不満
A(anxiety)	不安
G(guilt)	罪
H(hostility)	敵意
Wf(word fear)	語に対する恐れ
Sf(situational fear)	場面に対する恐れ
Cs(communicative stress)	話すことに対する心理的圧力

ですが、すると様々な疑問が思い浮かびます。これらの重りの中にはなにが入っているのか？これらの重りは図のように本当に一つ一つ独立しているのか？流暢さFlというのは人によってはエンジンではなく重りではないのだろうか？Mのエンジンは一つだけなのか？

つまり、人によって『吃音の気球』の形というのは大きく異なるはずで、と、ということで小学生グループで、それぞれの気球の形を考えてもらいました。また、その気球がどこまで飛ぶかということも考えてもらいました。

ここではC. Yくん(小4男子)の書いた気球を紹介し
ます。まずCくんの気球は、A・H・Sfの重りが大きく、
それ以外の重りが小さいことが分かります。つまりC
くんは不安や敵意、場面に対する恐れが大きいので
しょう。

特に敵意の重りが大きいです。さらに、この気球は
修復跡やダイナマイトがあつたりと今にも壊れそうに
なっています。そのことを本人に聞くと、「どもりが嫌
で、むしろ気球ごと爆発させたくなる(時もある)」だそ
うです。

しかしこの気球にはまだ注目点があります。たくさん
のエンジンが積んであることです。Cくんは「他の人に
できないことができる」と言っていて、自分の吃りの程度に
もさほど悩んでいない(乗り越えられそう)こと
が分かります。更に、この気球は太陽の近くまで
飛んでいるので、とても自分(のエンジン)に自信
をもっているのではないのでしょうか。

また、罰と敵意が罪に関係しているらしく、Gの重りに
PとHの重りがつながっています。

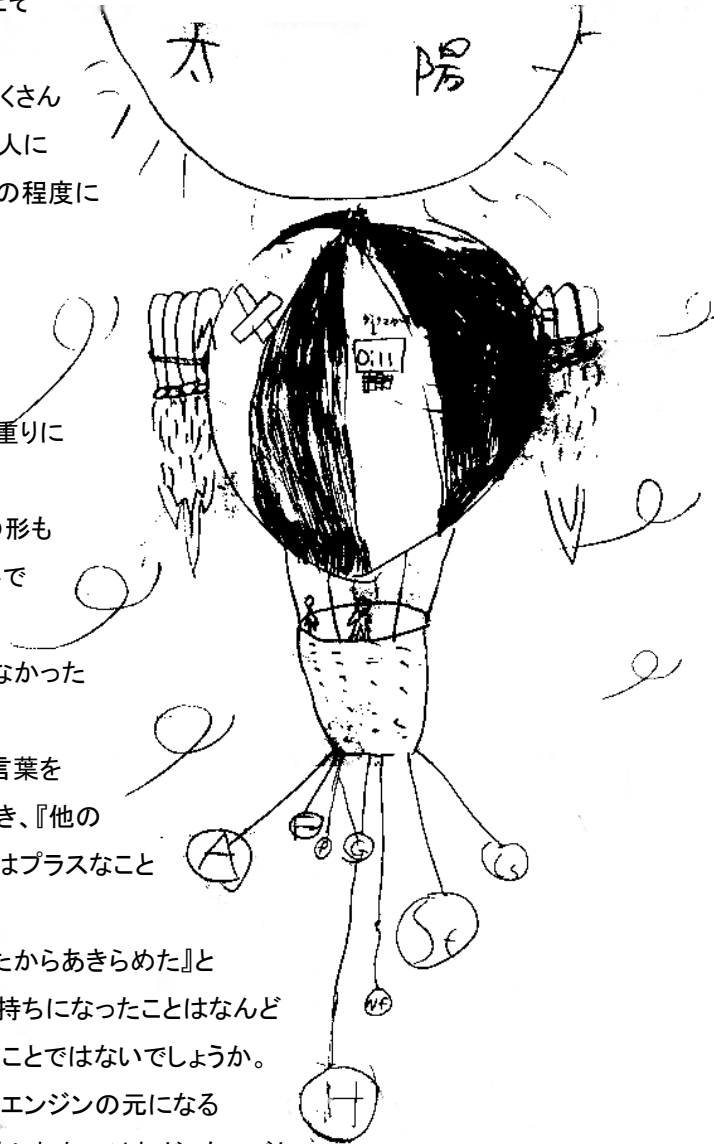
このように、人それぞれ考え方が違い、気球の形も
それぞれ違います。特に小学生は発想力が豊かで
色々な要素を持つ気球を見ることができました。

では最後に、サマキャン当日にあまり説明できなかった
『重りの中身』について説明します。

例えば、か行・た行の言葉が言いつらくて他の言葉を
探した、という経験はないでしょうか(Wf)。このとき、『他の
言葉を探してボキャブラリーが増えた』ということはプラスなこと
ではないでしょうか。

また、『学級委員になりたかったけど、どもってたからあきらめた』と
いう意見があります(F)。確かに僕もこのような気持ちになったことはなんど
もあります。でも、これも少しの勇気で実現できることではないでしょうか。

つまり、この重りの中に入っているものは、実はエンジンの元になる
ものではないでしょうか。多少強引に聞こえるかもしれないけれど、ものごと
は考え方によっては全てプラスに変えることができると思います。重りとなるものをエンジンに変えること
ができれば、『吃音の気球』はより高く、
より遠くまで飛べると思います。



2011年8月6日(土) サマーキャンプ御殿場にて
中高校生の吃音のつどいスタッフ 川口亮太